

Malaysia Palm Oil Board (MPOB)

マレーシアパームオイル研究所
へ行ってきました。



どこまでも続く 油椰子畑

マレーシアの特産物といえば、『スズとゴム』と
いっていたのも今は昔のお話でしょうか。現在のマレーシアは質の良い原油を
産出する国。プランテーションの約60%は油椰子畑になっています。

今、マレーシアは産油国として潤っていますが、その埋蔵量にも限りがあり、
あと数年で底をついてしまうと予想されています。そこで、原油のみに依存す
るのではなく、様々な分野の産業への転換を図る必要があります。その中で注
目されているのが油椰子、パームオイルです。ここ最近、油椰子畑はどんど
面積を広げ、現在約400万haあるそうです。かつて、ゴムのプランテーシ
ョンであったところも、今では油椰子畑になっているところがたくさんありま
す。パームオイルの収穫量の50%は輸出されています。

さて、パーム椰子の利点としてどんなことが挙げられるでしょうか。例えば、
現在バイオエネルギーとして、バイオエタノールが注目されていますが、その
原材料としてトウモロコシなど穀物が利用されています。その結果、穀物の価
格が上昇し、食料問題に発展しています。ところがパーム椰子の場合、人間の
食料に影響を及ぼしません。その上、パーム椰子は他の作物に比べて、油を含
む割合が多いのも特徴です。また椰子の木は、椰子の実からオイルを採るだけ
でなく、木の繊維を紙に利用したり、木を箸や皿などの工芸品に利用したり、
実からオイルを採ったあとの残りを肥料に利用するなど100%利用可能な作
物です。

その他に椰子の木の成長が早いということも利点の1つでしょう。椰子の木
の苗を植えて3年目から収穫が可能になります。その後、約25年間もその木が
利用できます。椰子の実を収穫しても次から次へと実ができるようです。

このパームオイルは、何に利用されているのでしょうか。穀物から作られた
バイオエタノールのように、自動車の燃料として利用するなど、次世代のエネ
ルギー資源としての研究はもちろんされていますが、もっと身近なところでも
利用されています。

例えば、パームオイルは食用油として利用されています。少し赤っぽい色を
していますが、カロチンたっぷり、コレステロール値を下げる効
果もあるなど、健康によい食用油とされています。その他、石鹼
などの原料、食品添加物としての利用、プラスチックのような高
分子化合物にも利用されています。その利用範囲は実に幅広いで
す。身近な製品の原材料名を見てください。パーム椰子、パーム
オイル、椰子油などの文字があれば利用されている製品です。驚
くほどたくさんのものに利用されていることがわかります。

『環境に優しい次世代の油』としてパーム椰子は今注目されてい
る作物と言えるでしょう。



食用
油